

いしかりまちづくりワールドカフェの結果

- 【日 時】 平成 24 年 10 月 14 日（日）14 時 00 分～17 時 00 分
【場 所】 石狩市総合保健福祉センター りんくる 交流活動室
【参加人数】 63 名



「いしかりまちづくりワールドカフェ」は、まちづくりの理念やルールを定めた石狩市自治基本条例が制定から 5 年を迎えたことから、改めてまちづくりについて学び、石狩市のまちづくりについて市民同士で語り合うことを目的に開催しました。

参加者同士がまちづくりについて語り合うワールドカフェで議論が活発になるように、情報提供として前段にまちづくりの概要に関する基調講演とまちづくり活動の具体的な事例発表を行いました。

【基調講演、事例発表】

基調講演では、北海学園大学法学部教授佐藤克廣氏から、まちづくりのルール（自治基本条例）や手法（協働の推進、都市内分権の導入など）等、まちづくりに関する概要についてご講演をいただきました。

事例発表では、都市内分権の事例として厚田区地域協議会会長佐藤勝彦氏から、市民活動の事例として海浜保護活動についていしかり海辺ファンクラブ会長石山優子氏から、自治基本条例を制定した当時の市民会議副代表松尾拓也氏から自治基本条例の振り返りについてそれぞれ発表を行っていただきました。

【ワールドカフェ】

ワールドカフェとは、カフェのようなりラックスした雰囲気の中で、少人数に分けたテーブルで自由な対談を行い、途中、メンバーを入れ替え対話を続けながら、参加する全員の意見や知識を集める対話手法のひとつです。今回は、5 人で 1 テーブル、計 13 テーブルで行いました。

第 1 ラウンド 問い：身近で頑張ってる“いしかりのまちづくり”は？

第 2 ラウンド 問い：同上（メンバーを変えて同じテーマで対談）

第 3 ラウンド 問い：私たちが大切にしたい“いしかり”のまちづくりとは、どのようなものでしょうか？

ハーベスト 第1～第3ラウンドで話し合った内容を踏まえて、「印象に残ったこと」などを付箋紙に書き出し、A2用紙の左半分に貼り、残りの右半分に「私たちが目指すこれから“いしかり”はなまち！」をテーマにまとめました。

各テーブルで熱心な話し合いが行われ、これからの石狩のまちづくりについて様々な意見が出されました。

【 各グループで話し合いまとめた結果 】

	今日の話し合いで「印象に残ったこと」、「重要だと思ったこと」、「気づきを得たこと」	私たちが目指すこれから“いしかり”はなまち！
1グループ	老人が老人を助ける時代(70～90代)、60歳からの参加?!(60歳から)、ボランティアは無償だの考え方はまずい、石狩市海岸風景のPR、若い世代へのつなぎ!、若者を(が)気になってる、(若者に)姿を見せろ、石狩は良いまち、石狩は頑張っている、頑張る人が限られている、生きがいをもってやれば継続できる、場の確保(場づくり)、イベント等の周知方法が良くない、住む場のコミュニケーション、関心の共有、多くのボランティア組織が活動している、活動する人たちは金太郎アメだ	定年が楽しみになるまち、頑張っている姿を見せよう!、各世代間のコミュニケーションがとれるまち。
2グループ	コミュニケーションの大切さ、人と人とのつながりが大切である、人とのコミュニケーションの大切さ、地域のさまざまな人とのコミュニケーション、自分の住んでいる地域を知る(理解してるか?)、身近なことを身近な人が知っているとは限らない、地元の良さを気づかせる必要有り、石狩市の良さを住民が分っていない、札幌の人の方が石狩の良さを知っている	楽しみながら活動すること、若者の関心をつかむ工夫、地元の人への参加が少ない、地域以外からの来場者を増やす、続けて行きたい各地域へのイベント、石狩市の中心はどこ?(向かう方向も)、新港のことが良くわからない、地域によって課題はさまざま、問題点を知ること、共有することから活動が広がる(全て付箋紙)
3グループ	若い人が地域活動に参加するための仕組みが必要、ボランティア活動の若人の参加対策、若い人がかかわるきっかけを作る、続けるための方法、代替わり、ボランティアの仕組みと見直し、楽しい・得する・おいしい 参加につながる、町内会活動行事の充実、市民が町のことを知らない、地域活動に入っていくためのきっかけをつくる、同じ顔じゃだんだん高齢化、地域の絆、災害時に助け合って避難するか?個人で逃げるか?地域との結びつき、ごみ対策の協調、町内会に行政が持っている情報を欲しい(高齢者・独居など)	若い人が誇りを持てるまち、地域の活動に参加する、そのためにはお得・楽しさ・おいしさなどのきっかけが必要、地域の絆を深める必要(防災・高齢者など)、行政の協力が必要、このため町内会などの活動の充実

4 グループ	<p>思いの共有、仲間をつくる、集う場づくり、点から線へつながる、点と点の地域の活動を結びつけていくことが重要、様々な活動が現在は点の活動となっているので、集約する場を設ける、たくさんの小さな活動をまとまりのある活動にしたい、情熱と夢、まちに愛着を、まちづくりを長続きさせる仕組み、ボランティアにも限界がある、どのような活動をしているか知らないことも多く、知らせる仕組みが必要、気持ちを共有できてうれしい、石狩の資源は素晴らしい、それを活かしたまちづくりをすべき、いろいろな意見を持っているけど、発表する場所が少ない、市の職員さんも良くしたいと悩んでいる、皆、石狩が好き、将来、子供達が石狩に戻ってくれるような地域にしたい、次世代に石狩に戻って来てもらえる様にしていかなければならない(鮭みたいに)、子供も次のステップに行った大人も元気でいたい</p>	<p>点から線につなげたい、皆(いしかりに関わる皆)がつながる 私たちの子どもたちも石狩を好きになって鮭の様に戻って来てほしい、しっかりとした雇用を生みだせる石狩</p>
5 グループ	<p>町内会活動 若い人は関わりにくい、自治会・町内会活動には若い人の参加が少ない。少ないのは当たり前との発想を持つべき、若い人から高齢者まで一人ひとりが何をできるか、町内会の役割、町内会は市役所の下請け、子供会から敬老会まで町内会の連携、まちづくりの基本は自治会・町内会の活動、協働事業にも単位町内会の財力が必要、まちづくりはハード面・ソフト面の両方が必要、仲間の輪、ボランティア・NPOとは？、無償ボランティアは限界。有償になりつつある、ボランティアでやっていたことが、いつの間にかNPOになっていた、石狩の核づくり、防災対応できるか、はたらく(活動)、支援とプライバシー</p>	<p>安心 一人ひとりが活動する</p>
6 グループ	<p>町内会活動の活発化、若い人が参加するまちづくり、まちづくり=大きなことではなく身近にやっていること、子供が戻ってくる地域に、自助・共助・公助、助け合い、もっと若い人に町内会等に参加をうながす、地域(町内会)に参加し、協力をしあう。各地域差もあるでしょうけれど、自治会・町内会との連携を大切にすまちづくり、少子高齢化を意識したまちづくりの在り方、地域におけるボランティアの大切さ、ゴミ問題ですが、いたる所にも散乱しているが、各自のモラルの問題だと思います、ゴミ出し等町内会の決めごとを守る、LNG基地の誘致</p>	<p>住みやすい きれいな町 (ゴミ 助け合い 協働) 直接 まちづくりへの参加 心</p>
7 グループ	<p>高齢者をもっと活用すること、人と人とのつながり、話すとわかる、町内会と高齢者クラブの連携、地域活性化は町内会から、町内の方の声かけ運動、若人も町内に入って欲しい、海の世界、川の世界、きれいな海・山・川、ゴミをどうする、ゴミ有料化の扱い、ポイ捨て防ぐボランティア、ゴミ対策をもっと考えよう、地産地消、次世代教育は環境・地産地消、市民の力、子供に礼儀、あいさつ、子供のモラルはあいさつから、道徳、子育て中の親の問題、子供の教育の基本は親である</p>	<p>一人ひとりが参加するまち(人まかせにしない自立した人間づくり)、地域のきずなを大切に</p>

8 グ ル ー プ	街づくりに高齢者(定年)の参加を、石狩・厚田・浜益(政策の違)スケールメリット、若者が集まるイベントを利用、厚田は資源が(人、物)たくさんある、高齢化、安心して住めるまち、高齢者で頑張る若者を引き起こす、ライジングサンの活用で街を活性化、若い人が参加してできるイベント、若い人に頑張っている姿を見せる事が大切、第1次産業への若者参加、子供に農家の手伝い、環境教育、スクールバスの空いた時間の活用等。考え方もあること、石狩・厚田・浜益 地域の良さを共有、高齢化になり買物が大変、石狩は教育の街(幼・小・中・高 一貫教育)、帰ってきやすい・帰ってきたくなるまちづくり(イベント)	年を取っても安心して暮らせるまち、若者がふるさとを誇りに思えるまち、高齢者の移動手段の確保が課題
9 グ ル ー プ	子ども・高齢者・障がい者が住みやすければ、みんなが住みやすい、地域コミュニティ、市民活動がしやすい支援、情報の共有と価値観の違い、助け合いの気持ち、子供達のふるさと意識、高齢者が集える場所、町内会活動、町内会活動を支える側の苦勞、半強制でも町内会で動こう	子ども・高齢者・障がい者が住みやすいまち みんなが住みやすいまち、コミュニティの「これ」という形がない難しさ、便利がつながりをなくした(例:ゴミの出し方、葬式)、子育て、食から政治が見えた(全て付箋紙)
10 グ ル ー プ	子どもがいるまち、子どもが住みやすい環境づくり、子ども手当ではなく学校給食費に、子どもが少なくなって町内会のまつりができなくなる、これからは子どもが住みやすい様なことを一杯考えて、若い人の収入が安定しないので子どもを産めない、子どもを沢山まちづくりの中心に、ボランティアの若手育成支援 子どもと親の参加	石狩が大好きな人がつくるまち、活動を継続するための次の人材、まちづくりにはボランティアが欠かせない、町内会の交流を活発に、活動の拡がりがあっても人材の拡がりがない、ボランティアネットワーク 情報交換会等、町内会からの発信、各町内会の取り組み、皆さん、この石狩が好きな人が沢山いることがわかりました (全て付箋紙)
11 グ ル ー プ	地域の特色を生かした活気あるまち、若者を定住させて元気な石狩、春夏秋冬旬なまち、高齢者が生きがいを持っている石狩(いつまでも元気で)、新港を中心に栄える石狩	夢を語ることが重要、高齢化対策がどここの地区でも重要、まちづくりと言っても人によって考え方が違う、石狩の繁華街ってどこ、石狩の中心地ってどこですか、石狩にシンボルトワーを、ふるさと石狩を大切にしてい、石狩の街づくり カンリ林 イソコモリグモの全国発信、いしかり地元生産物の展示・販売 道の駅の設置、ボランティア活動継続の難しさ(全て付箋紙)
12 グ ル ー プ	警察署の設置、地域によって課題は違う、神様がいた、草刈条例、札幌から移り住んでくる方の要望、思いやり いるんな方がいてありがとう、皆さんの熱い思いを感じました、固定者以外の参加、安心、安全	OMOIYARIのまちいしかり
13 グ ル ー プ	自然が一杯、自然を大切にする、濃昼山道からの赤とんぼ、食の宝庫、石狩だけの食文化、地産の食文化を大切に、後世に残したい、サロンの充実を、コミュニケーションを取れるサロンを身近に、住民が集い話ができる場、サロンが個人と個人をつなぐ場になる、みんなの笑顔のための市民活動、地域を大切に出来る取り組みの充実、印象 個の夢を地域の夢に 情熱を持って語り合う、重要 点を線に 情報交換・交流の場づくり、地域の良さ(自然・特産品・イベント・人物など)を発信すること、地域を巻き込んだ活動、重要 地に足をつけた石狩圏の創設、楽しくないと続かない	自然と食 観光資源 情報交換 = 人と人とのつながりのあるまち 石狩のおいしいものを食べたかったら人と人とのコミュニケーションやコネクションが必要である。

【ワールドカフェの全体のまとめ】 各グループで話し合った内容をまとめると次のとおり

いしかりまちづくりワールドカフェで話し合われた、
私たちが目指すこれから「いしかり」は、 なまち

地域の絆

各世代間のコミュニケーションがとれるまち 問題点を知ること、共有することから活動が広がる 地域の絆を深める必要（防災・高齢者など） 点から線につなげたい 皆（いしかりに関わる皆）がつながる ゴミ 助け合い 協働 地域のきずなを大切に OMOIYARIのまちいしかり 情報交換 = 人と人とのつながりのあるまち 石狩の美味しいものを食べたかったら人と人とのコミュニケーションやコネクションが必要である。

地域・NPO活動

楽しみながら活動すること 地域の活動に参加する そのためにはお得・楽しさ・おいしさなどのきっかけが必要 このため町内会などの活動の充実まちづくりにはボランティアが欠かせない 町内会の交流を活発に ボランティアネットワーク 情報交換会等 町内会からの発信、各町内会の取り組み

暮らし

定年が楽しみになるまち 頑張っている姿を見せよう！ 住みやすいきれいな町 石狩が大好きな人がつくるまち 夢を語ることが重要 ふるさと石狩を大切にしていこう

若者

若者の関心をつかむ工夫 若い人が誇りを持てるまち 私たちの子どもたちも石狩を好きになって鮭の様に帰って来てほしい 若者がふるさとを誇りに思えるまち

福祉

高齢者の移動手段の確保が課題 子ども・高齢者・障がい者が住みやすいまち みんなが住みやすいまち 高齢化対策がどの地区でも重要

経済

地域以外からの来場者を増やす しっかりとした雇用を生みだせる石狩

市民自治

一人ひとりが活動する 一人ひとりが参加するまち（人まかせにしない自立した人間づくり）

安心・安全

安心 年を取っても安心して暮らせるまち

行政

行政の協力が必要

自然

石狩の街づくり カンリ林 イソコモリグモの全国発信